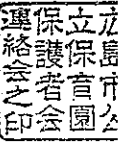


2009年6月25日

広島市長
秋葉 忠利 様

広島市公立保育園保護者会連絡会
会長 西本 佐和



広島市の保育行政（公立保育園廃止・民営化問題）について ご懇談のお願い

日頃より、保育行政の充実にご尽力を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、広島市の保育は、公立保育園の廃止・民営化方針により大きな分岐点に立っております。2009年1月「保育園のあり方」策定後、廃止・民営化予定の園名が公表され、5つのうち4園で広島市による説明会等が進められております。私ども広島市公立保育園保護者会連絡会では、民営化予定とされている保育園保護者はもとより、対象園以外の保護者とも対話を繰り返し、情報を共有しつつこの問題をともに考えてきております。

2005年の「公立保育園を民間移管する」との方針発表以降、4年に渡り、広島市の担当課の方々との懇談の中で、「子ども達を中心に考える施策」「子どもを大切にする保育」についてご理解いただけるようお願いしてまいりました。しかしながら、今、実施されている予定園での説明でも、保護者の疑問に十分な回答がされておらず、とても「保護者の理解が得られている」と言える状況ではありません。疑問が解決されないままスケジュールを一方的に示され、保護者の不信感は増大し、不安もさらに大きくなるばかりです。

世界規模の経済不況の影響で、2009年4月の待機児童数は600名を超えており、待機児解消は最優先されるべき課題です。このような中、国の2009年度補正予算には、「地域活性化・経済危機対策臨時交付金」が組み込まれ、その事業例に「保育所施設整備等」が挙げられております。広島市に対しては19億円を超える交付金が見込まれるなど、これまでとは異なる状況も生じております。広島市民にとっての公立保育園は、戦後の復興を助け、地域に根ざした施設であり、その民営化には異論や疑問の声が多くあります。先の市議会で、保護者の不安の解消に努めることを答弁された市長の言葉に期待し、子ども達の受ける保育の将来に実りある施策を示していただくことに期待をしている保護者、市民は、決して一部ではありません。安易に子どもに痛みを押し付けるのではなく、当事者をはじめとした住民の声に真摯に耳を傾け、検討が進められるべきだと考えております。

つきましては、ご多忙の折とは存じますが、保護者の切実な思いをお酌みとりいただき、ご懇談に応じてくださいますようお願い申し上げます。また、別途提出しております要望書について、早急にご対応くださいますようお願い申し上げます。